

令和5年度 学校評価書

延岡市立南小学校

4段階評価 (A:期待以上 B:ほぼ期待通り C:やや期待以下 D:大幅な改善を要する)

評価項目	評価指標	南小学校		学校運営協議会委員		改善策
		自己評価	○成果 ●課題	評価	コメント	
夢や希望、目標をもって勉学に励み、思考力、判断力、表現力などを働かせて問題を解決する児童の育成	○学習規律の定着と「できる」まで教え、見届ける指導の充実 ○人権・同和教育や特別支援教育の充実、心の教育や命を大切にしている教育の推進	B	○基本的な学習態度の指導やGIGA端末の活用など、指導の工夫・改善を図り、児童の「わかる・できる」を目指した授業を行うことができた。 ○人権教育や心の教育、命を大切にする教育を、日常指導をはじめ、道徳科や学校行事など、全教育活動をあげて実践することができた。 ●個別指導や特別支援教育など、一人一人に応じた指導の工夫・改善をさらに進める必要がある。	B	・授業参観を通して、子どもたちの基本的な学習態度が身に付いており、授業の工夫・改善がされていると感じた。また、人権や心の教育など、命の大切さに関する日常指導を実践している。 ・教育も多様化する中で、一人一人に応じた指導をしていると思うが、人数の多い学校では難しい面もあるのではないかと感じる。全学年に少人数指導があるとよいと思う。	◇一人一人に応じた指導の工夫・改善を図るためには、学校と家庭との繋がりをより強化していく取組が必要である。個別最適化を図る授業づくりを充実させ、学力向上を図る。
生命尊重、思いやり、感謝、奉仕などの感性豊かな心を持ち、明るいあいさつができる児童の育成	○あいさつやきまり、無言清掃などの基本的な生活習慣の確立 ○心理的安全性の保障による自己肯定感の育成と、いじめ・不登校等に対する組織的な対応の充実	B	○あいさつや返事ができるように、機会を捉えて指導を行うことができた。きまりや無言清掃などの基本的な生活習慣については、重点指導をするなどの手立てを講じ、一定の成果を上げることができた。 ○いじめや不登校等の事例に対して、関係機関と連携をとりながら、組織で対応することができた。 ●あいさつが進んでいくための取組をはじめ、児童を認める・褒める指導のさらなる充実を図っていく必要がある。	A	・外を歩いていると、南小の子どもたちがよくあいさつしてくれるので、とても嬉しくなる。横断歩道で止まった車に深々とお辞儀をする子どもがいるなど、よくあいさつしてくれると評判である。指導の継続をお願いしたい。 ・靴やトイレのスリッパがきちんと並べられていて、とても気持ちのよい光景だった。 ・いじめや不登校に関する情報は、私たちの耳に入ることがなく、なかなか分かりにくい。	◇あいさつなど、基本的な生活習慣をさらに身に付けさせるために、その大切さを理解させるための具体的な指導の工夫を行う。 ◇必要に応じて、学校の教育的課題を関係者と情報共有し、連携を図った取組を行っていく。
自分の健康の保持増進や体力向上に努めるとともに、安全に心がけ、自分の命は自分で守る児童の育成	○学校施設の安全管理及び安全指導や訓練の徹底 ○保健指導の充実及び体力向上と食に関する指導の充実	B	○病気やけが、熱中症等への対策をはじめ、感染症対策や安全指導を常時進めることができた。 ○体力向上に向けて、体育学習の充実を図るとともに、食や睡眠などの生活リズムの改善に関する取組も実践することができた。 ●「自分の命は自分で守る」ことへの指導の徹底と安全に対する判断力の育成を図る必要がある。	B	・学校施設内の安全管理・指導がよく実践されている。また、空調設備が整い、夏冬も快適に子どもたちは過ごさせている。子どもの様子から、マスク着用や水分補給など、対策ができていたと感じた。 ・登下校時の交通ルールなど、自分の命は自分で守る指導を、青パト隊などの地域や家庭と連携して行ってほしい。	◇「自分の命は自分で守る」ための判断力を身に付けさせる指導を充実させ、保護者をはじめ、青パト隊などの関係機関と連携した取組を実践していく。
学校・家庭・地域で目標を共有し、地域とともにある学校づくりの推進	○学校運営協議会を中心とした保護者・地域との連携推進 ○学校への協力者との連携、地域素材・人材の活用及びキャリア教育等の推進	B	○学校運営協議会では、「地域みんなが顔見知り」を合言葉に、あいさつによる地域づくりを目指すという方向性を決め、前進させることができた。 ○学校協力者と連携し、総合的な学習の時間や生活科等の中で、地域素材や人材を活用した「ふるさと教育」を進めることができた。 ●コミュニティ・スクールの充実に向け、「家庭・地域・学校」の連携強化を進める必要がある。	B	・学校協力者と連携したふるさと教育を行うことにより、地域の方との交流の機会が増え、地域住民の学校に対する関心をより深めることができた。 ・校長室通信やテトルによる学校情報を積極的に発信したことが、学校の取組を知るよい機会となった。 ・地域素材等の活用はできているが、コロナ禍以降、家庭・地域・学校の連携が弱くなっている。学校行事への保護者協力の機会が増えれば、保護者・地域・学校の繋がりがも増えると思う。	◇「あいさつ」による地域づくりを目指すとともに、地域素材・人材を活用しながら、「家庭・地域・学校」の繋がりがより感じられる取組となるよう、内容の充実に努めていく。

|